

(26) 有識者へのヒアリング（その3）

■ 世間の注目を集めることを狙った取り組み

／美しい景観を創る会

取組の概要

- 各分野の第一人者による、分野を横断した、景観を創る運動を広める取り組み。
国民運動として展開するために、世間の注目を集めることを狙い「悪い景観 100 選」というインパクトのある取り組みを打ち出した。
- 長期に継続させることのデメリット（負担増大、組織の継続が目的化）を考慮して 2 年間の時限で実施し、一定の成果を得た。

【取り組み内容】

① 分野を横断する取り組み

- 建築、土木、都市計画、農村、森林、照明、造園といった各分野の第一人者が結集し、分野を横断して、美しい景観を創る運動を広めることを目的に発足。

② 国民運動として展開するための活動

- 景観形成を国民運動として展開することを目指し、世間の注目を集めるインパクトのある打ち出し、全国各地でのシンポジウム、政策提言などの取り組みを行った。

③ スポンサーなしのボランティアな活動

- 活動自体にスポンサーをつけず、各委員が活動資金を出資。各委員・事務局はボランティアとして自由な活動を行うことができた。
- 一方で、ボランティアの活動であるため、委員・事務局の意見調整・協力関係の維持に特に気を配って進めた。
- 委員・事務局の負担の増加や、組織の継続が目的化し手段の目的化が起こることを考慮し、活動は2年間の時限とした。

④ スムーズな広報活動の展開

- プレスに詳しい人間が一手に対応を引き受けることで、スムーズな広報展開を実施することが可能になった。

【取り組みの成果・課題】

- 活動は国内外のメディアにとりあげられ、市民から専門家まで大きな反響があり、特に景観面で後発の土木分野から注目を集めた。
- 活動を次の世代に引き継いでもらいたいのが、本業も忙しく、また分野の垣根を越えた大同団結がまだ難しい状況にある。

【活動の詳細】

悪い景観 100 選 : 70 の悪い景観と 30 の改善事例を選定して HP 上に掲載。

<p>悪い景観</p> <p>「世界の銀座」玄関口にこの看板か(東京・中央区)</p> 	<p>良い景観</p> <p>「継続こそ力なり」小布施聖の小径(長野県小布施町)</p> 
--	---

シンポジウム・セミナー : 全国シンポジウム3回、地方シンポジウム8回、セミナー6 回を実施。

提言 : 「日本の景観政策を提言する」として、国民、自治体、政府、企業に対する提言を作成。

出版等 : 委員の対談を中心としたセミナーの内容をまとめ、書籍として出版。

シンポジウムの内容は日経新聞に見開き特集で掲載された。

美しい景観を創る会

活動期間 : 2005 年 2 月～2007 年 3 月

委員

メンバー(あいうえお順)		専門分野
伊藤 滋	早稲田大学特命教授	都市計画
石井 幹子	光文化フォーラム代表	照明
石井 弓夫	(社)建設コンサルタンツ協会会長	土木
小倉 善明	(社)日本建築家協会前会長	建築
楠本 侑司	(財)農村開発企画委員会専務理事	農村計画
新宮 晋	造形作家	造形
榛村 純一	(財)森とむらの会理事長、掛川前市長	森林、地方自治
中村 英夫	武蔵工業大学学長	国土計画
中村 良夫	東京工業大学名誉教授	景観工学
平野 侃三	(財)都市緑化基金前理事長、東京農業大学名誉教授	造園
宮本 忠長	(社)日本建築士会連合会会長	建築
村尾 成文	(社)国際観光施設協会会長、(社)日本建築家協会元会長	建築